

市民談話室

投稿をお待ちしています。この「市民談話室」は、市民の皆さんの意見交換の場です。テーマは自由です。あなたがふだん思っていること、お書きになって気軽にお寄せください。紙面の都合上、文を短くすることがあります。あて先は、〒九五〇一十二 白根市大字白根一三三五 白根市役所企画課広報広聴係です。



市民文芸

俳句
初日の出山天の散歩足かく 波辺 勲
物足りて淋しさの増す炬燵かな 坪川桐太郎
林すれば葉のぬくもり置炬燵 針貝静男
豆を運る炬燵の傍に妻と居て 石田聖実
吉日を余して茶室の古厝 眞保清三
初雪を知らせて珠を起す朝 田中昭一
初雪に庄内林し蛙の味 牛嶋七郎
初雪や句友浄土の旅に立つ 中山義英
初雪や子等よろこんでかけくらへ 森原平一
ずり落ちる大根おさえ車おし 金田イト
こまめにも日々のメモある古厝 須戸義夫
木枯らしや鳴り立つ銀杏の空 玉木長吉

川柳
やりくりの巧さ虎の子良く育て 吉川末吉
意地張って見ても曲った腰が負け 米野光雄
愛人の匂いを知った洗濯機 波辺ミヨ
見合い慣れしてる女は腹が減る 今井七郎
誕生日シヤネルの五番目に買う 今井クエ
豪遊のツケにおののく月給日 岡村 清
賑やかなドラマで明ける千沢山 織田セツ
さまたまな虎吸い込んでいるポスト 後藤マサノ
折れそうな愛を支えている手紙 佐藤トミノ

愛人の胸借りて吠く寒格 佐藤ヨキ
無一文だから豪遊やってのけ 高橋祐四郎
あと幾つ越せるか怖い誕生日 竹石甚五
愛人とはったり会った非常口 田中成子
小包が珠の名で来る誕生日 田村恒夫
一休のトンチで虎も苦笑する 長井徳市
スーパリーの釣りに三光汽船買う 中村尚治
孤児が書く文筆師の詩ばかり 西茶ムラ
故郷へ帰る切符が浮かれ出す 野内熊太郎
筆無精年賀で一年間を詫び 早川英男
出稼ぎの手紙に土の匂いする 山岡フミ
単身の豪遊故郷の詩が無い 吉川 彰
出身地異なるコケシの勢揃い 吉川欣一

短歌
音たてず足早に来る年の瀬に 好まざる年齢一つ重ねし 大野タケノ
咲き残りそれとも冬の返り咲き 紅蕃殿一つ雪に震えり 中村 京

学校教育

新飯田は小・中一貫教育

上杉道夫さん（新飯田中学校校長・56歳）
学校教育関係では望ましい教育の在り方として、小・中・高校を一本に結びつけた指導をしようという動きが広まっています。大都市の私立学校では、以



徒に目をかけ、声をかけ合って指導しています。これはある意味で、小・中一貫教育を試行していることになり、中学生は、六年間お世話になった小学校の先生がたの姿を、九年間見続けることになり、見守っていただけることになるから、実に恵まれています。また毎日、小学生という後輩から中学校生活を観察されているため、先輩としての自覚と責任を問われているわけで、衆人環視の状

態とあつては、中学生もなかなか容易ではないのかも知れませんが、何はともあれ、地域と結び

家庭、地域で環境づくり

中山義英さん（愛瀬新田・農業・70歳）

ある日、電車に乗ったところ、二人の子供が窓側に向かい、運動靴をはいたままにぎやかに騒いでいました。しかし、そばにいた母親は、注意のひと言もなく平然としていました。私はただばう然とするばかりありませんでした。ひと言くらい注意するのが当然ではないでしょうか。また、別の日、同じく電車の中で、中学生らしき者がたばこを吸っているのを見かけました。目の前にいながら勇気を持って注意できなかった自分が情けなく、残念に思っています。昨年 本市で起こった校内暴力問題を例にとつても「学校ではどんな教育や指導がなされているのか」という地域住民の不

豊かで住みよい白根市づくりを

平野久作さん（東萱場・農業・76歳）

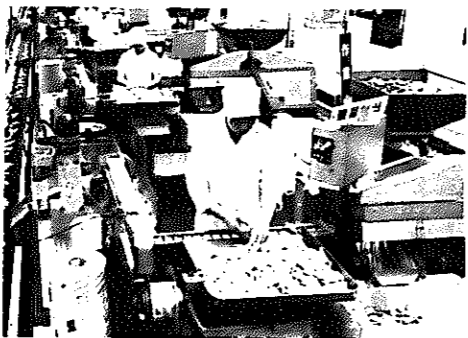
十月六日は茨曾根地区の敬老会でした。助役さんや市議会議員さんのお祝いの言葉や、高齢者に記念品の贈呈、祝宴など、ほんとうに楽しい一日でした。村内有志や婦人会のかたがたには、忙しいにもかかわらず、私たち老人のため心からの御接待、ほんとうにうれしく思いました。心からお礼を申し上げます。戦後、生活様式が変わり、農業一本では生活できない時代になりました。将来、豊かな住みよい白根市をつくるのが、これからの課題だと思います。

工員の清潔感がとても印象的

笹川菊代さん（二の町二・自営・57歳）

工場製菓を一度見たいと思つていたところ、機会に恵まれて社内見学に参加してきました。門をくぐるとすぐに、広大な敷地とすばらしい庭園が目に入り、驚かされました。工場内はもちろんのこと、隅々に至るまでごみ一つ無く、さすが食品関係の職場だと、感心しました。

楽しく働けるような白根市の出現を、お祈りいたします。私たち老人も、各分野に少しでもお手伝いできたらと思つています。これからも、私たち老人は健康に十分注意し、また来年の敬老会に出席したいと思つています。



軍需工場で働いたころを懐かしく思い出しました。創業数十年にして、今では日本の家庭に無くてはならない嗜好食品を生産する亀田製菓。新製品を次々に開発され、ますます発展の途をたどつてやまない亀田製菓の繁栄を、心から祈りつつ白根工場を後にしました。

児童らの顔ありありと

私の思い出昔のわが街



語る人 庭野茂樹さん（桜町5・教員・57歳）

かつて鯉淵の土手の下に、小さいながらも整備された学校がありました。それが白根小学校の分身、鯉淵分校です。明治35年の町村合併の折に開設されました。私は昭和34年から2年間お世話になり、以来24年を経過しましたが、当時の校舎、職員、児童、お世話になった地域のかたがたの顔が、ありありと見えてきます。職員玄関の左手に二宮金次郎の像があり、玄関を入るとすぐ運動場、右側に職員室と宿直室。運動場の左に並ぶ教室で1年生から4年生が学び、5・6年生は本校へ通っていました。

テレビはまだ普及しておらず、宿直の日、近所の子供たちが学校のテレビを見にきていました。プールもなく、鯉淵の用水取り入れ口で泳ぎ、体が乾くと泥で白くなっていました。昭和42年3月、分校が廃止されましたが、かつて鯉淵の土手の下に、現在言われている「人間性豊かな児童の育成」がなされていた鯉淵分校があったということ、今も忘れられないでいます。



昭和34年、クラス全員で土手をバックに